

1 【遊びのプロセス】の考え方

幼児教育の中心は遊びです。資質・能力の3つの柱は、遊びを通しての総合的な指導のもと、相互に絡み合うようにして伸びていきます。園で毎日、何気なくやっているように見える遊びは、子どもの中で着実に積み重ねられています。しかし、そこに保育者が願いをもち、子どもたちの育っていく方向性が見えていることが重要です。

幼稚園教育要領等で記されている方向に向かって子どもが育っていくには、保育者が遊びを通して子どもたちがどのように育っていくのかをイメージできることが必要ではないかと考えました。【遊びのプロセス】で、3歳、4歳、5歳と具体的な遊びの姿が見えることで、子どもの育ちのつながりがイメージでき、日々の保育のヒントになると考えました。

「遊び」としてひとくくりにしてきたものを、具体的な遊びに分け、それぞれについて、3歳、4歳、5歳とどのような遊びに発展していくことが考えられるかを示しました。この遊びにつながるためには、保育者としてどのような環境構成や言葉かけが必要かを考えていただくきっかけとなるのではないかと考えたからです。

当然、ここに載せた遊び以外が出てくることは多々あります。園に代々伝わる遊びや活動もあるかと思います。多様な活動や遊びの選択肢があることを意識した上で、「自分の園にはどんな遊びがあり、どんな育ちが見られるか」を考えていただければと思います。各園には得意とする遊びや、毎年のように行われる遊びがあると思います。そのような遊びは、遊びの発展を期待しやすい遊びであったり、保育者が遊びの中から10の姿を感じやすい遊びであったりします。このような遊びが年間の活動の中に適宜配置できるような環境構成がなされていると、年間のカリキュラムをイメージしやすいのではないかと思います。

また、園には、数多くの行事もあります。行事は、子どもが大きく成長する場でもあります。どの園にもありそうな「遠足」「運動会」「生活発表会」を特に取り上げ、遊びと同様、つながっていく例を挙げました。行事を行事としてだけで終わらせず、遊びから行事につなげたり、行事を遊びにつなげたりすることで、イメージが共有されたり、同じ目的に向かう意識が高まったりすることは、これまでの実践報告からも明らかになっています。行事は、子どもたちにとっても重要な表現の場です。遊びが発展し、行事で表現できるようにつながりが見えてくると、子どもたちの学びに向かう力が自ずと高まっていきます。与えられた行事を楽しむ子どもから、行事を節目に生活をつくる子どもへの転換を期待したいものです。

【遊びのプロセス】を活用していただき、各園として、それぞれ独自のカリキュラムを考えていただきたいと思います。

また、子どもに寄り添う保育者の支援があると、子どもたちの遊びや活動は、より主体的で対話的で深い学びになっていきます。そこで、どのような支援や環境構成が考えられるかの一例を「遊びのプロセスを踏まえた保育者・教師の支援例」として掲載しました。これをもとに、遊びの展開のプロセスを追体験していただき、どのような10の姿がそこで培われたのかを保育者同士で語り合っていたいただければと思います。事例から10の姿を読み取る力は、保育者の10の姿を育む力に結び付いていくに違いありません。また、事例を読み解く力は、他の保育者との語りや傾聴の中で培われるものです。それは、人と関わる専門職は、人との関わり合いの中で育つからです。事例を機に、保育者同士でご自身の事例の話をし合うのもいいでしょう。いくつもの事例がご自身の事例に結びついていくと、自身の保育への確信となっていくと思います。

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

やってみる

みんなと一緒に楽しむという思いはあるが、自分だけのペースで進むわけではないことがまだ理解できない中で、集団としての楽しさを徐々に感じるようになる。園庭やホール等に出かけ、年中・長児を見たり、入れてもらったりしながら、いろいろな動きに取り組む中で、「こんなことをした」「これがおもしろかった」と保育者に伝えるようになっていく。

遊具遊び

- ◎固定遊具を使ったり、思い切り走ったりしながら、心地よさを感じられる遊び
- ◎固定遊具やマット等を活用し、「体のバランスを取る動き(立つ、起きる、回る、渡る、ぶら下がる等)」「体を移動する動き(歩く、走る、跳ぶ、登る、はう等)」を経験する遊び
- ◎園庭やホール等に出かけ、年中・長児の大きな動きを見たり、可動式の遊具と一緒に使ったりしながら、いろいろな動きに取り組む遊び

ボールや用具を操作する遊び

- ◎柔らかいボール等を使ってコミュニケーションを図りながらできる遊び

集団ゲーム遊び

- ◎毎日たくさん走るみんなが楽しめる遊び
- ◎みんなでできる簡単なゲーム等の集団遊び
- ◎簡単なルールがある遊び

触れ合い遊び

- ◎リトミックや動物ごっこなど、いろいろなポーズをとったり、手や足で体を支える動きを取り入れたりする遊び
- ◎音楽に合わせて、踊ったり体操したりする遊び
- ◎水を通して、冷たさを感じたり、友達と大声を出し合いながら心も体も解放されたりするような遊び

「できた」「勝った」がうれしい

継続することで上達する遊びに挑戦するようになる。年長児の姿を見てあこがれたり、できる友達に教わったりしながら、できるようになりたいという思いをもって粘り強く取り組むようになる。その中で、できるようになるためにどうしたらよいのかを考えたり、イメージしたり、友達の様子を見たりして最後までやり遂げようとする。

- ◎固定遊具やマット等を活用し、体を回転させたり、逆さになったりする動きがある遊び
- ◎平均台や跳び箱、技巧台、マット等を組み合わせてつくったコースを使って、「できた」という成功体験を積み重ねられる遊び
- ◎何度も繰り返す中で、徐々に素早く動いたり、いろいろなやり方を身に付けたりするようになる遊び
- ◎これまでの経験をもとに、コースに、カラーコーンだけでなく、タイヤ、ペットボトル、なわとび等、様々な障害物を置くことを考えて遊ぶサーキット遊び

- ◎なわとびやコマ回し等、多少難しいと思われる遊び
- ◎うまくいかなかったり、悔しい思いをしたりしながらも、一緒にやろうとしている仲間がいることで気持ちを立て直し、見通しをもってあきらめずに取り組める遊び
- ◎サッカー、ドッジボール等、役割によって別の動きをするボール遊び
- ◎跳んだりついたりした回数を数えながら遊ぶ遊び

- ◎しっぽ取り、助けおに、氷おに、増やしおに、ドンじゃんけん等、友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるような遊び
- ◎うまくいったりいかなかったりする体験を通して、みんなで遊ぶにはルールを守る必要があることに気付ける遊び
- ◎思い切り走ったり、走りながら振り返ったり、よけたり、止まって向きを変えて走り出したりする動きを経験できる遊び
- ◎つかまった友達を助ける方法を考え、おにの動きを見ながら自分の動き方を考えようとする遊び

もっと楽しく

体全体を動かす楽しさを味わってきた子どもたちのそれぞれの経験が、より楽しい遊びをつくり出していくと共に、みんなで体を動かす楽しさを生み出していくようになる。クラスみんなで取り組む遊びやゲームも多くなり、競う楽しさを味わうようになる。

- ◎「やってみたい」「できるようになりたい」というあこがれの気持ちをもって、挑戦したり達成感を味わえたりするような遊び
- ◎リレーやドッジボールやしっぽ取り等、クラス全体で取り組める、味方と相手に分かれた遊び
- ◎起こるトラブルや、勝つためにはどうしたらよいか等について、みんなでその都度話し合いながら、ルールや規範意識が根付いたり、自分たちでルールをつくるおもしろさに気付いたりする遊び
- ◎みんなが楽しめるように、遊ぶ場所やメンバーによってルールをつくり替えたり、不都合が生じるたびにルールを決め直したりするような遊び

得手、不得手も踏まえて工夫する

運動遊びに意欲的に取り組み、どうすればよいかを理解し、基本的な動きを身に付けていく。また、自分が工夫したことや伝えようとするを、言葉だけでなく、身振り等動作を伴いながら表現するようになる。

【国語】

やってみて楽しいと感じた運動遊びや試したり工夫したりしたことを動作を交えながら友達に伝える。

【生活・体育】

学校探検の中で見つけた、園のものより高い鉄棒やうんてい等を使って、自分の力を試してみたり、園にもあったボールや園にはなかったハードルや大きなサッカーゴールを目にして、やりたいと思う気持ちになったりする。体を動かす楽しさや心地よさを味わい、のびのびと体を動かしながら、様々な基本的な体の動きを身に付けることにもつながる。

広い校庭で、いろいろなレーンを走ったり、リズムよく跳ぶことを楽しんだり、園で親しんできた簡単なおに遊び等をしたりする中で、経験してきたルールや決まりを思い出したり、新しい仲間と共に、新たなルールをつくり出したりする。

【道徳】

ルールや決まりを守ったり、みんなが楽しめるようなルールにつくり替えたりする。少し苦手と感じることに対して、簡単に諦めることなく、できる範囲で取り組む。

遊びのプロセスを踏まえた保育者・教師の支援例 P24～参照



この時期に取り組んでほしい遊び【運動遊び編】

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

なりきる

遊びの中で必要なものを保育者に伝えたり、場所を行き来して運んだりしながら、遊びのイメージに合うように自分でつくり替えようとする。特に、読んでもらった絵本やみんなで共有しているお話等に出てくる登場人物になりきり、おうちごっこに取り入れたり、劇遊びに発展したりすることもある。「この遊びにはこれが必要」「今日はこの役がやりたい」「もっとこうしたい」等、イメージが膨らむにつれて様々な思いをもつようになり、それを実現したくなる。

場面をつくってなりきる

劇ごっこ、お店屋さんごっこなど、友達とイメージが共有しやすい遊びの中で、一つの目的をもって、試したり工夫したりしながら満足感や達成感を味わう。自分の考えを出したり、友達の意見を聞いたりしながら、実際に試し、うまくいったりいかなかったりする体験を重ねながらさらに新しい考えを生み出していく。

他者を意識してなりきる

遠足や運動会等、みんなで体験した心動かす行事を再現する遊びに取り組んだり、自分たちでも真似できそうなことをイメージし、それを伝え合いながら進めたりすることで、感じたことや考えたことを表現する喜びを味わう。お店屋さんごっこや劇遊び等を通して、遊びのイメージを共有し、みんなで活動する楽しさや連帯感を感じ、やり遂げるようになる。

友達と役割を分担して実行する

ごっこ遊びで楽しんでいたことが、次第に本物になっていく。普段は一緒にいない園児に、自分たちがつくったおもちゃで遊んでもらう体験は、見えない相手を想像して考えることにつながる。また、おままごつが、家庭生活に関わる活動につながり、お店屋さんごっこが地域に関わる活動につながり、動物になりきっていたことが実際の動物を飼うことにつながっていく。お店屋さんごっこでやりとりをする中で、人の考えや思いに触れていたことが、本当の店ではどうなのか、実際にインタビューに行ってみようというように、変化していく。

この時期に取り組むべき遊び【なりきる編】

ままごと
おうちごっこ

- ◎エプロン、風呂敷、スカート等を友達同士つけたりつけてもらったりして、自分の思うような動きを楽しむ遊び
- ◎友達と同じ場所でごちそうをつくらったり、同じものを身に付けたりして、行動を共有しながら一緒に遊ぶことを感じる遊び
- ◎食器や鍋等、既製のものだけでなく、お手玉、毛糸、風呂敷等をいろいろなものに見立てたり、自然物も取り入れたりしながら、友達と共有できる言葉のやり取りや動きを楽しむ遊び

ヒーローごっこ
キャラクターごっこ

- ◎保育者の助けを借りて、お面や付属品等を身に付け、役そのものになりきって、登ったり、跳んだり、回ったり、転がったりしながらやりたいことを楽しむ遊び
- ◎基地をつくらったり、おうちごっこをしているところで休憩させてもらったりしながら、動と静の動きを楽しむ遊び
- ◎保育者の助けを借りながら、自分の思いを言葉にして相手に伝えたり、相手の気持ちを知ったりして、お互いにより楽しくなっていく遊び

- ◎ブロックや空き箱・空き容器等で遊びに必要なものをつくらたり、製作の材料を料理に使ったりと、必要なものを別の場所から運んだり持ち込んだりしながら、目的の実現に向けてイメージを膨らませる遊び
- ◎「○○っていいことね」と、言語で友達とイメージが共有されることを楽しむ遊び
- ◎一人一人のイメージでなりきりたいものになりきる場面と、友達と同じイメージをもって関わって楽しむ場面とが混在するような遊び
- ◎大型の積み木や段ボールで空間を囲い、自分たちの戻る場所を固定して、出かけたり戻ったりを楽しむ遊び

- ◎お化け屋敷ごっこ、レストランごっこ、お店屋さんごっこ、ゲームコーナー、忍者ごっこなど、子どもから始まった遊びをクラスで取り上げることで、みんなで共通の目的に向かって活動することが楽しいと思えるような遊び
- ◎「お客さん」を意識し、見てもらったり買ってもらったり、喜んでもらったりということが目的になるような遊び
- ◎「今日はここまでの準備をする」「ここまでできたらお客さんと呼ぶ」等、見通しがもちやすい遊び
- ◎必要なものを考える中で、看板やチケット、お金などの必要性を感じ、つくりかいたりすることを楽しむ遊び

【国語】
活動を通して気付いたことを振り返り、気が付いたことや、こうするともっとよいと思うことをみんなの前で発表する。
どのように伝えたら分かりやすいかを考えながら、園児への説明を考える。

【3年 社会】
本物のお店、町等に出かけ、ごっこ遊びが本物の社会とつながっていく。地域や市、仕事についての学習や見学につながる。

【生活】
園児と共に手づくりおもちゃで遊ぶ交流会では、園で行っていたお店屋さんごっこを生かし、お互いの店についてもっと準備しておくとよいものや、お互いに遊んでみて気が付いたことを伝え合いながら進めていく。
おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりして、まず自分たちが十分に遊びを楽しむと共に、活動を通して気付いたことを振り返り、伝え合うことで、園児に対してどのように説明すると分かりやすいか、楽しんでもらうためにはどうしたらよいかを考えられるようになる。

【算数】
招待する人数から準備するおもちゃの数を予測したり、遊ぶための場所の広さを考えたりする。

【道徳】
友達と協力し、助け合って園児が楽しめるようなおもちゃのお店をつくる。
園児に温かい心をもって、親切に接しようとする。

【図画工作】
「こんなおもちゃで遊ぶと楽しい」と考えるものを身近な材料を生かしてつくる。
おもちゃだけでなく、景品や看板等、お店をイメージして思いついたものを工夫してつくり出す。

お店屋さんごっこ
劇づくり
遠足ごっこ

遊びのプロセスを
踏まえた保育者・教師の
支援例
P26～参照



- ◎友達とイメージを共有し、一つの目的に向かいながら、自分のやることを自覚していくような遊び
- ◎一人の子の思いで進み、途中で終わってしまうこともあるが、保育者の手助けを得る中で、徐々に意見を言ったり、聞いたりして、考えを説明しながら進められるようになる遊び

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

不思議と出会う

安心して過ごせる場所を見つけ、保育者や友達と一緒に場を共有しながら遊ぶ。初めて見たり、触ったり、挑戦したりという体験を積み重ねながら、「できた」という小さな成功体験を繰り返し味わう。

砂遊び

- ◎カップに砂を入れてごちそうに見立てたり、砂山で電車や車のおもちゃを走らせたりする等、イメージに合う用具を使ったり、素材に合った用具を見つけ出したりする遊び

泥団子遊び

- ◎泥団子ができるかどうか試したり、感触を楽しんだり、丸い形にするために両手を動かしてみたりして楽しむ遊び

不思議をおもしろがる

砂山にトンネルを掘り、道をつなげて電車を走らせたり、色水をつくってジュース屋さんにししたりと、少し先のイメージをもって遊ぶ。自然物を使って色水遊びをしたり、泥団子をつくったりする遊びに取り組むことで、素材の特性に気づき、これを使うとうこうなると見通しをもって遊ぶようになる。

- ◎葉や木の実で飾り付けしたり、木の枝を集めて他のものに見立てたりする遊び
- ◎自然物を取り入れながら、「きれい」「おいしそう」「本物に近い」ものを自分なりに工夫してつくろうとする遊び

- ◎繰り返し取り組む中で、土に加える水の量や丸めるときの力加減や大きさ等に気づいていく遊び

転がし遊び

- ◎といやパイプ等をつなげ、ものを転がす遊び
- ◎高低差が必要であることや、形によって速さが変わること等、法則性に気づくような遊び
- ◎何度も転がしたり、友達の転がりや比べたり等して、より転がるものや転がり方がおもしろいものを探そうとする遊び

不思議から新たな発見をする

一人の興味・関心から生まれた遊びに他の子が加わったり、競い合ったりする姿が出てくる。振り返りの時間に紹介することで、遊びが共有され、新しい考えが出されたり、共通の目的に向かって翌日につながったりする。

- ◎友達と力を合わせて、水路をつくったり、山や川、木等を組み合わせて、砂場全体を町に見立てたり等、「これをつくろう」という目的をもった遊び
- ◎砂や土、水等の性質に気づき、つくりたいものに合った材質を選んでつくろうとする砂遊びや泥団子づくり等の遊び
- ◎水の量を微調整して形にしたり、固まるまでの時間に興味をもったりしながら、生活経験に結びつけていくような遊び

- ◎転がすものを変えて試したり、ものの形で転がり方が違うことに気づいたりするような遊び
- ◎場所や材料、素材、用具などを工夫して使い、転がり方を試しながら、より転がるように問題を解決しようとする遊び

- ◎割れにくい、大きい等、つくりたいシャボン玉をイメージしながら、考えを出し合い、試し、何度も挑戦していく遊び
- ◎風の動きに気が付き、風を利用した飛ばし方を工夫したりする遊び

- ◎つくった色水にあるものを加えることで色が変化する等、経験したことから気づきをもとに意見を出し合ったり、試行錯誤を繰り返したり、偶然発見したりしながら、さらなる気づきを生み出していく遊び

- ◎生き物を捕まえるおもしろさや、体のつくりやすさか等、様々なことに気づき、考えるようになる遊び
- ◎飼いや育て方を考えたり調べたりしながら、生き物との付き合い方を考えていく遊び
- ◎身近な環境の中で探したり、自分で調べて分かるおもしろさを感じたりすることを繰り返しながら、必要な情報を取り入れていくことを楽しむ遊び

- ◎収穫物の数を数えたり、大小・軽重・長短を比べたり、形の違いを意識したりして、数に親しむ経験を重ねる遊び

- ◎水やりや添え木が必要なことに気付いたり、解決方法を考えたり、家で聞いたりしながら生かしていくような遊び

- ◎これまでの経験を生かして、パーティー等を企画し、家族や地域の人々に喜んでもらおうとするを楽しむ遊び

不思議を解決する

園で体験したことが学校の学習でも生かされることが分かる、それぞれがしてきた経験を言葉で表現しながら活動に取り組むようになる。また、友達と一緒に考えることで、新しい考えが生み出されることが実感できると、困難なことや多少難しいことを前にした際に、自分たちで何とかしたいという思いにかられ、実行しようとするようになる。

【国語】
発見したことや驚いたことをみんなの前で発表する。
どのように伝えたら分かりやすいかを考えながら、説明をする。

【算数】
「たくさん」を具体的な数で示したり、「広さ」や「大きさ」を「このぐらい」と身振り等で表したりする。

【生活】
学校探検では、諸感覚を働かせて探検する。不思議に思うことやさらに知りたくなることがあると、それを解決するために、インタビューの方法や中身を考えたり、実際にインタビューしたりする。

【3年 理科】
物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質等につながる。

校庭で遊ぶ中で、さらに探検したり、近くの畑を見ついたりする。虫や花を見つけ、これまでの経験を生かし、知っていることを出し合ったり調べたりしながら活動がさらに楽しいものとなっていく。また、発見したことは、話したり、絵にかいたりしたくなる。

【道徳】
虫や植物などに親しみ、大切に扱う。

公園に出かけ、自然の中で遊んだり、季節ならではの遊びをしたりする際には、園での経験が大いに生かされる。自分が体験したことや友達が体験したことを合わせながら、新たな遊びをつくり出すこともある。

【図画工作】
虫や植物等、発見したことを絵にかきたくなり、かきたいことを見つけようとする。

【生活】
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけるようになる。生命をもっていることや成長していることに気づくとともに、生き物への親しみをもち大切にしようとする。

【生活】
栽培活動を通して植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらの命や成長に気づき、大切にしようとする。

【3年 理科】
身の回りの生物につながる。

この時期に取り組んでほしい遊び【不思議編】

遊びのプロセスを
踏まえた保育者・教師の支援例
P28～参照



	3歳児	4歳児	5歳児	1年生
	<p>素材と出会う</p> <p>自分なりにかいたりつくったりすることを楽しみながら、保育者を通して素材や友達との関わりを徐々に深めていく。保育者の遊びを見ながら、初めての素材にも触ってみようとして、できあがったものをもらったりして、様々なものに興味をもつようになる。保育者と一緒に遊びに必要なものをつくり、それを使って会話しながら遊びの楽しさを味わう。</p>	<p>素材を楽しむ</p> <p>いろいろな遊びや素材に親しみ、自ら選んだ好きな場所でやりたいことに没頭する中で、友達ともの貸し借りや場所の取り合いをしたり、思うようにいかないらだち等を体験したりする。自分のイメージをもちながらも、友達と会話しながらつくることで、つくる楽しさと友達と関わる楽しさを味わうようになる。</p>	<p>素材を生かす</p> <p>一部にこだわりをもってつくったり、友達同士で合体させたりしながら、つくることと共に、できあがったものへの愛着も感じるようになる。「こういうものをつくりたい」という思いや願いをもって友達と関わりながら目的をもってつくる中で、自分の意見を言い、友達の意見も聞きながら、実現に向けて、よりよい方法を考えたり、工夫したり、協力したりするようになる。</p>	<p>素材を組み合わせて新たな製作活動を生み出す</p> <p>素材を単独で使うだけでなく、複数の素材を組み合わせてつくることもできるようになってくる。友達と一緒に一つの目的をもってつくり上げる過程の中で、お互いの意見を交わしながら、よりよいやり方を思いついたり、実践する中で新たな考えが生み出されたりする。</p>
お絵かき遊び	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分が書きやすい道具(マーカー、クレヨン、色鉛筆等)を使って、好きなようにつくったりかいたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎絵の具など、使う道具の幅を広げ、かくことにとどまらず、フィンガーペインティングやボディペインティングにつながっていく遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分のイメージしたことを画用紙に表現したり、つくったものに色を付けてさらにイメージに近づくことを楽しんだりする遊び 	<p>【国語】</p> <p>自分が工夫してかいたことや、つくったことを言葉で表す。どんなふうにまとめたりつくったりしたらよいかを友達同士尋ねたり、それに応えたりしながら完成させていく。</p>
折り紙遊び	<ul style="list-style-type: none"> ◎色を自分で選んだり、数回折って別のものに見立てることを楽しんだりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎簡単な折り方でできるものを自分でつくったり、本を見てつくりたいものを決め、保育者の助けを借りながら、つくり上げたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎複数枚の折り紙を使って一つの作品にしたり、つくったものを別の箱等の飾りに使ったり、折りたたくで切ってできる形を楽しんだりする遊び ◎素材や用具を目的に合わせて選び、必要に応じて段ボールを使ったり、友達と協力して切ったりつなげたりしてイメージを実現しようとする遊び ◎製作そのものが目的ではなく、遊びの中で必要なものをつくったり、できあがったものを使って遊んだりすることを楽しむ遊び ◎イメージしてつくったものをさらに本物らしく改良していく遊び ◎ゴムを使って車を動かしたり、玉がうまく転がり落ちるようなしかけをつくったりする中で、自分なりに動きの規則性を見出しながら法則性に気付いていくような遊び 	<p>【生活】</p> <p>学校探検したことをもとに、学校の地図をつくることにつながる場合もある。みんなで一つのものをつくり上げる際に、どこを誰が調べてくるかと分担したり、実際につくってみて、たりないところに気付いて再度調べに行ったりすることを繰り返してつくり上げていく。</p> <p>おもちゃづくりでは、これまでの経験を生かし、どうやったらもっと楽しくなるかと考えながら進めていく。自分なりの工夫を友達に伝えたり、友達のやり方を取り入れて、さらにおもしろいものをつくり出したりするようになる。</p> <p>【算数】</p> <p>地図の大きさと配置するものの大きさを考えながらつくったり、前後、左右、上下等の方向や位置を確認しながらつくったりする。</p> <p>形を認識し、組み合わせ方を考えていく。</p> <p>【道徳】</p> <p>みんなで作ることを楽しんだり、できあがっていくものを見て、学校や友達に親しみを感じたりする。</p>
製作遊び	<ul style="list-style-type: none"> ◎新聞紙を丸めたり、はさみ、のり、セロハンテープ等を使って切り落とししたり、貼ったりする遊び ◎保育者と一緒に遊びに必要なものをつくったり、それを使ってなりきったりできる遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事の製作、お店の品物づくり、劇遊びの道具づくり等、自分のイメージしたものが実現する楽しさを味わえるような遊び ◎ゴムをまいたら動く、引っ張って手を離したら飛び、玉が入ったら動く等、性質や仕組みに気付いていくような製作物を使った遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎箱同士をつなぎ合わせたり、イメージに合う大きさや形の箱を選んだり、不要な部分を切り取ったりして、自分のイメージするものに近づけようとするを楽しむ遊び 	<p>【図画工作】</p> <p>自分が探検してきたことをもとに、地図に表したり、再度見に行き確認したりする。</p> <p>いろいろな素材を使ったり、組み合わせたりしながら、楽しく遊ぶイメージをもってつくる。</p>
空き箱遊び	<ul style="list-style-type: none"> ◎箱にひもをつけてバックに見立てたり、集めたものを箱に入れて取っただけで、箱に紙を貼り付けたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎箱同士をつなぎ合わせたり、イメージに合う大きさや形の箱を選んだり、不要な部分を切り取ったりして、自分のイメージするものに近づけようとするを楽しむ遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎つくったものの大きさも考えながら組み合わせ、一つの場面としてイメージしながらつくる遊び 	
粘土遊び	<ul style="list-style-type: none"> ◎固まった粘土から、必要な分をちぎったり、ちぎったものを丸めたり、道具を使って切ったり穴をあけたり、型押ししたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎丸めたり、ちぎったりしたものを組み合わせて動物や乗り物、ごちそう等、一つのものをつくる遊び 		

遊びのプロセスを踏まえた保育者・教師の支援例 P30～参照



この時期に取り組んでほしい遊び【ひんがし編】

	3歳児	4歳児	5歳児	1年生
	<p>言葉を楽しむ</p> <p>みんなで歌ったり、踊ったり、絵本を読んでもらったりする中で、顔を見合わせて笑ったり、驚きを共有したり、保育者の真似をしたりすることが多くなる。同じ歌や踊りを繰り返すことで、遊びの中に取り入れたり、友達同士でやってみたりして、友達と関わる楽しさや一緒に表現する楽しさを味わうようになる。</p>	<p>言葉遊びに取り入れる</p> <p>手遊び・絵本の読み聞かせ・歌・リズム遊び等、クラスみんなで一緒に集まって活動することを楽しみに待つ。みんなと一緒に音楽に合わせて踊ったり、絵本を聞いたりしたことが、劇遊び等に発展することもある。</p>	<p>自分なりの言葉を見つける</p> <p>絵本やカルタ、手遊び等で文字や数に興味をもつようになる。絵本やカルタに親しむことで自分でもつくってみたり、手遊びや歌を替え歌にしたりする。表現することを一人で楽しんだり、みんなで楽しんだりしながら、お互いの得意なことに気付いたり、認めたりするようになる。</p>	<p>表現することでより高度な表現をつくり出す</p> <p>物語を耳で聞いて想像したり、自分で読んで内容を理解したりしながら、自分の体験と結び付けたり、想像をふくらませたりする。歌うことや言葉遊びを楽しむだけでなく、聞き役を経験したり、友達の姿を見たりして、「もっと上手になりたい」「みんなで合わせたい」という思いをもつようになり、表現の仕方を工夫して変えていくようになる。</p>
この時期に取り組んでほしい遊び【言葉遊び編】	<p>読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎絵や本、紙芝居をみんなで見たり聞いたりする中で、言葉や絵のおもしろさに笑ったり、真似してみたりする遊び ◎簡単なストーリーで、役になりきりやすい絵本の筋書きに乗せた遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎読んでもらった絵本を自分で本棚から持ってきて見たり、保育者の真似をして、ストーリーの一部を自分で創作して読み聞かせをしたりする遊び ◎短い童謡や、ストーリー性のある長めの歌の中で、自分なりに登場するものを思い浮かべたり、イメージを膨らませたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎文字や標識の役割に気付くような絵本やカルタ遊び ◎数字やひらがなにちなんだ手遊びや歌遊び ◎絵本や図鑑、物語に親しみ、想像を豊かにしたり、それをもとに表現したりする遊び ◎美しいものや不思議なものへの気付きを自分なりの表現で表す遊び ◎友達と歌や踊り、劇などで表現し合う遊び ◎言葉やリズムのおもしろさを体全体で感じるしりと、なぞなぞ、言葉遊び 	<p>【国語】</p> <p>発見したことや驚いたことをみんなの前で発表する。</p> <p>名刺をつくり、渡し合うことで、適度な大きさや名前の書き方と読みやすさ、名前の他に知らせたいこと等に気付くようになる。</p> <p>先生や上級生の名前の中に学習した文字があることに気付く。</p>
	<p>手遊び・歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎みんなで集まって同じ仕草を楽しめる手遊び ◎歌の中に出てくる生き物や動きがイメージでき、動き出したいくなるような歌遊び ◎繰り返すことで、遊びの中に取り入れたり、覚えた部分だけ友達同士でやってみたりして、関わる楽しさを味わえるような遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎既製のすごろくやカルタ・トランプ等、色・形・数や量・文字等を取り入れた遊び ◎友達と声を合わせて言葉を言ったり、歌ったりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎既製のすごろくやカルタ等で遊んだ経験を生かし、自分たちでオリジナルのすごろくやカルタ等をついたり、それを使ったりする遊び 	<p>【生活】</p> <p>学校探検で、学校には、園とは異なる表示や、他の教室にはないものが置いてある教室、鍵がかかっている場所等、様々なことに気が付く。</p> <p>いろいろな場所へ行って発見したことや驚いたこと、もう一回確かめに行きたいところ等をみんなの前で伝えたり、絵や文章で表現したりして、クラス全体で共有する。</p> <p>目的をもって再度探検することで、たくさんあるものは数えたくなり、見たことのない楽器は使ってみたくなり、名前の知らないものは知りたくなる。</p> <p>他の先生の許可を取ったり、上級生に聞いたりして分かったことをクラスに持ち帰って知らせたくもなる。また、探検する中で、先生や上級生に声をかけられ、自分を紹介するために名刺のようなものがあると便利なことにも気付いていく。</p>
	<p>言葉遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎絵本を通して、言葉のリズムや擬態語・擬声語のおもしろさに気付き、真似をする遊び ◎言葉と絵、言葉と生活が結びつくようなカルタ遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然物や空き箱・空き容器等で楽器をつくり、それを使って演奏する遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎音楽に合わせてリズムを刻んだり、みんなで同じ曲に合わせて演奏したりする遊び 	<p>【3年 社会】</p> <p>地図記号や、施設・設備の学習につながる。</p>
	<p>音遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎リズムや音楽に合わせて体を動かす遊び ◎カスタネットや鈴等、音が鳴る楽器を使って、自由に鳴らしたり体を動かしたりする遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の経験や考えを分かってもらえるよう、実物を見せたり、友達に補ってもらったりしながら、思いを共有しようとする伝え合い ◎友達の思いや考えを聞いたり、聞いて考えたことを発信したりしながら、お互いの思いを伝えようとする伝え合い 	<ul style="list-style-type: none"> ◎相手の意識して話したり、活動を想像して聞いたりしながら、お互いの思いが繋がる伝え合い ◎経験したことの中から、視点をもって話すことを選んで話したり、自分に置き換えて考えたりしながら、次への見通しがもてるきっかけとなるような伝え合い 	<p>【算数】</p> <p>たくさんある椅子の数を数えようと、みんなで数を唱える。</p> <p>上級生とすれ違って、大きいと感じたり、自分と比べたりする。</p>
	<p>伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎遊びや生活の中で、「話したい」「聞いてほしい」と思える活動に出会い、みんなに話せる場と時間が保証されている伝え合い ◎実物を見せながら、自分が経験したことや考えたことを話そうとする伝え合い 			<p>【道徳】</p> <p>校内を歩く際に、どんなことに気を付けたらよいか、教室に入るときにどんな挨拶をしたらよいかを考える。</p>
				<p>【音楽】</p> <p>音楽室の存在を知り、近くを通った際に、上級生が校歌を歌っているのを聞き、自分たちも歌えるようになりたいと思うようになる。</p> <p>音階やリズムを意識し、自覚しながら歌ったり演奏したりしようとする。</p>

遊びのプロセスを踏まえた保育者・教師の支援例 P32～参照



遠足前

遠足後

行事のカリキュラムの見方

毎年どの園でもおそらく行われていると考えられる行事3つを例として挙げた。行事前の姿や遊びがあり、それを行事に生かしたり、逆に、行事を行ったことで、それが次の遊びに生きてきたりすることがある。例年行われる行事では、子どもたちも少しずつ前年を思い出して行動したり考えたりすることができるため、育ちも変わってくる。同じ行事でも、毎年同じではないと感じていただきたいと考え、年齢が上がるにつれて積みあがっていくイメージをもっていただくために、3歳児から4歳児、5歳児と積みあがるイメージで記してある。



遊びからつながったり遊びにつなぐたりする行事

製作遊び

シール帳やお便りにかかっているイラストから、もうすぐ遠足があることに気付く子が出てくる。

お弁当箱やバスの歌を自分たちで替え歌にして楽しんだり、「今年はどこ?」と行き先でどう楽しむかを考えたりするようになる。行き先とこれまで家族や友達と出かけた経験を組み合わせ、遠足で行くところを想像し、パンフレット等を見せてもらうことでさらなる期待につながる。パンフレットを見ながら、自分で地図をつくったり、パンフレットを囲んで「私はここに行きたい」「ここでお弁当食べようか」と、かなうかどうかは別として、話し合いが盛り上がりたりもする。



お弁当箱やバスの歌を歌うことで、昨年の経験を思い出し、友達同士あれがおもしろかった、今度はどこだろうと遠足に期待をもつ。年少時の経験について問うことで、あいまいだった記憶がはっきりしたり、遠足と家族で出かけたことを混在させながら話したりする。

行き先の写真を見ることで、期待と具体的なイメージがもてるようになる。動物園であれば、動物の写真、公園であればそこにある遊具や広場の写真を見ることで、「この動物が見たい」「これで遊びたい」とさらに期待がふくらむ。保育者がつくったお弁当やリュック等の製作物を見て、自分もつくりたくなったり、つくっている子の様子を見て、「こんなものも入れてみたら?」と意見を伝えたりして、参加している意識をもつ。

お弁当箱の歌やバスの歌で、ペープサートやバスのハンドル等を使いながら、繰り返し歌ったり振り付けたりすることを楽しむ。そのペープサートを使って、好きな遊びの中でも、自分から歌ったり、それを使って別のごっこ遊びが始まったりもする。

敷物があることで、お出かけしてお弁当を食べるという発想が生まれ、お弁当がつくりたくなったり、普段遊びで使っているものを詰めてお弁当にしたりして、園庭やホールへ出かけていく。

「お出かけ」という名目があるため、普段よりは、年中・長児の部屋に行きやすくなる。そこでやっている遊びに参加したくなったり、近くでお弁当を食べさせてもらう中で、「年中・長児の部屋にはおもしろいものがあったり、おもしろいことをしていたりする」と気付く。

お弁当箱の歌やバスの歌を歌ったり、遠足関係の絵本を読んでもらったりすることで、遠足のイメージがもてるようになる。また、家でお弁当に入れるものや持って行くおやつはどんなものにするかを話すことで、園でも話題になる。行き先によっては、すでに行ったことのある子が見たものや遊んだことを話すこともある。

遠足

遠足の写真が掲示してあったり、思い出されるものが置かれていたりすることで、共通の思い出を遊びで再現したくなる。

例えば、動物園や公園。場所が確保され、取っておける環境があれば、ブロックや平均台、跳び箱、段ボール等を組み合わせて、動物や遊具をつくり出す。動物や遊具をつくる子もいれば、チケット売り場や池、動物のえさ等をつくる子もいる。バラバラに見えてはいても、大きなイメージは共有されているため、いずれつながっていく。

「ここが〇〇っていうことね」「〇〇ってどんなんだったっけ」「写真見てごよう」と、写真で確認しながら再現していく。年少・中児を招待して、見てもらったり遊んでもらったりすることが目的になることも多い。

振り返りで紹介することで、「これもあるといい」「僕、〇〇つくりたい」と別の子が参加することも多い。共通の体験は、細かく説明しなくても伝わり、自分のやろうとしていること、つくろうとしていることも理解されやすいため、これまでイメージを共有して遊ぶことがあまりなかった子も参加しやすい。

段ボールで低い柵をつくって囲うことで、おりに見立てたり、公園に見立てたりしながら、遠足を再現する。大がかりではないが、積み木で滑り台をつくったり、ブロックで動物をつくったりする。囲われた空間であるため、少し動くとも崩れたり、場所の割に関わる人数が多くなり、トラブルになったり、途中で抜ける子がいたりもする。他の場所で作り始めると、今度は積み木やブロックがたりなくなる。

振り返りで話したり、翌日保育者が空き箱や空き容器等で動物をつくっておくと、興味のある子は自分でつくろうとする。同じ場所で人形を使って遊んだり、そこを拠点として、近くに家をつくったり、ごはんをつくったりするようになる。



遠足の翌日、段ボールでつくられたバスがあることで、昨日の経験を再構築し、イメージをもって遊ぶ姿につながる。

バスに乗って、ホールを行き先に見立てたり、そのうち、遠足からさらに発展して、バスごっこになり、途中で止まってお客さんを乗せたり、道路をつくったりする。自分たちだけで進めることは難しいが、保育者が加わったり、一緒に行った年中・長児が手伝ってくれたりすることで、行ったり来たりを楽しむようになる。

年中・長児が遠足を再現するような遊びを始めると、その部屋に行く際にはバスに乗って出かけ、自分の部屋に戻る際もバスに乗って…という具合に遊びがつながっていく。

製作遊び

5歳児

ごっこ遊び

製作遊び

4歳児

遠足ごっこ

3歳児

バスごっこ



運動会前

運動会后



5歳児

5歳児にとっての運動会は、昨年までの経験からある程度の見通しがもてるという自信と、いよいよ自分たちが進めていく番であり、見てもらう場であるという意識が強くなる行事でもある。

鼓隊であれば「うまく演奏して、聞いてもらいたい」、綱引きやリレーであれば「勝ちたい」、様々な役割を担っているのであれば「格好よくやりたい」と、目標をもって取り組む。

「この時間は遊んで、この時間になったら運動会の練習をする」と見通しがもてることで、練習に意欲的に取り組む子も増えてくる。

昨年までの経験から、こんな競技をやりたい、この仕事をしたいと意欲をもっている子もいる。種目に関しても、ただ走るだけでなく、ケンパや縄跳びを使って等動きを複雑にしたり、跳んだり等他の動きを加えたりするアイディアも出てくるようになる。また、これまでの遊びの経験をもとに、コースに障害物を置くことを考えたり、ルールの在り方が話題になったりもする。体全体を動かす楽しさを味わってきたそれぞれの経験が、より楽しめる種目をつくり出していくとともに、みんなで体を動かす楽しさを生み出していくようになる。

運動遊び

普段の遊びで取り組んでいる固定遊具や平均台・跳び箱等を使っての動きと、ごっこ遊び等のイメージを組み合わせることで、楽しく取り組めるようになる。例えば、忍者になりきって修行をしながらゴールを目指したり、段ボールでつくられた動物の口に、餌に見立てた球を投げ入れたり、さらには、製作遊びでお面や餌をつくってさらにイメージを膨らませたりすることもできる。

4歳児

園の文化として、カラーガードに取り組み、「4歳児になったらカラーガードができる」と楽しみにしている子もいれば、取り組む前から難しいと感じている子もいる。昨年のビデオを見てイメージをつかんだり、知っている曲でやってみたりすることで、「がんばればできるかも」という見通しがもてるようになる。

ごっこ遊び

綱引きや玉入れ等、集団で行う種目のイメージは強く、昨年を思い出してやりたい気持ちはあるが、実際やってみると、思うように勝てなかったり、うまくいなくて途中でやめてしまったりもする。初めは、遊びの中でやりたい子で取り組んだり、短い時間に1回だけ取り組んだりすることで、「もっとやりたい」という意欲につながっていく。

3歳児

運動遊び

園での生活や環境に慣れ、安心して過ごす中で、好きな遊び、好きな場所を見つけて繰り返し遊ぶようになると、徐々に新しいことに取り組むようになる。

走ったり、跳んだり、登ったり、バランスをとったりする動きを遊びの中で経験することが、運動会につながっていく。力いっぱい走ったり、みんなと一緒に球を投げたり、高いところから飛び降りたりと、一つ一つのことが「できた」という成功体験につながっていく。

例えば、バルーンを初めて目にすると、中に入ったり、上にのったりしたくなる。年中・長児がやる姿を見て、またそこで遊び込むことで、自分たちもやってみたくなる。バルーンだけでなく、体操、踊り等、みんなで一緒に取り組むことで、遊びの中に取り入れられた部分だけ友達同士でやってみたりして、友達と関わる楽しさや一緒に表現する楽しさを味わうようになる。

普段の遊びの中で出てきた動物やキャラクターになりきって運動遊びに挑戦することで、意欲がかき立てられたり、イメージをもって動いたりできる。運動会ならではの種目を取り入れることも大切だが、普段の遊びの中でのイメージをひろって種目につなげることで、自分たちでつくり上げていく感も育っていく。

園での最後の運動会は、大きな成長を遂げる行事でもある。意見を出し合いながら、運動会という目標に向かって取り組んできたことが、保護者や保育者、年少・中児からの言葉によって、充実感を感じ、友達と競う楽しさや「自分たちの力でできる」という自信につながっていく。

この経験が、普段の遊びの中でも生かされ、相談しながら進めたり、うまくいかないと思っていたことでも自分の意見を伝え、友達の意見も聞くことで、さらによい考えが浮かぶ楽しさも味わうようになる。また、友達の下さや得意な面にも気づくようになり、認め合って遊ぶようになる。

様々な遊びの中で、友達と共通の目的をもって力を合わせることがおもしろくなり、友達とのつながりが深まっていく。

グループでイメージを共有したり、クラス全体で一つのイメージをもったりすることができるようになってくるため、ごっこ遊びが大がかりなものになったり、友達同士考えを出し合いながら何日も継続して遊びが発展していったりする。

年長児がしていた鼓隊にあこがれたり、障害物競走をやってみたくなったり、チーム対抗で競いたくなったりする。運動会で使った用具等が自由に使えることで、まずは、運動会と同じようにやってみたり、そのうち、自分たちでコースを変えてみたり、チームをつくって競ったりする。一つ一つの種目は、短時間で終わってしまうこともあるが、チーム対抗で行うおもしろさを少しずつ感じ始め、しっぽ取りやサッカー遊び等につながっていくこともある。

また、みんなで練習して一つのことを成し遂げた経験が、「みんなでやるとおもしろいものができる」という素地となり、個人でしていた砂遊びや色水遊び、製作遊び等が徐々に合体していき広がっていくこともある。

運動会での年中・長児の姿を見て、運動会のイメージがはっきりする。また、運動会の時には、たくさんの人の前で緊張してできなかったことをもう一度挑戦したいと思うこともある。運動会で使った用具等は、しばらくの間、片付けずに自由に使える状態にしておくことで、あこがれて挑戦したり、できたことを再度やってみて自信を深めたりすることにつながっていく。運動会当日がゴールではなく、ここから他の種目等にも挑戦する意欲につながっていく。

自分たちもリレーをやってみたくなり、リングバトンを渡したり、受け取って走ったり、時には、終わりのないリレーになったりもする。「走るの楽しい」「バトンを渡しながらかけるのっておもしろい」と感じて、いつの間にかたくさん走っていたということにもなる。ルールを教わったり、ルールに気付いたりしながら、順番、交代、合図などの約束を知っていく。

集団ゲーム遊び

製作遊び

5歳児

砂遊び・泥団子遊び

集団ゲーム遊び

製作遊び

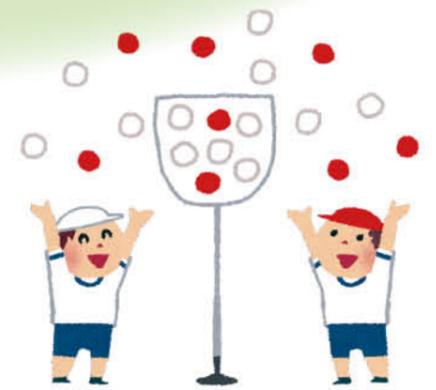
4歳児

運動会ごっこ

砂遊び・色水遊び

運動会ごっこ

3歳児



生活発表会前

生活発表会后



遊びからつながったり遊びにつながったりする行事

これまでの経験

これまでの経験と遊びを生かし、生活発表会で何を見せたいかを子どもたちで考えられるようになる。夏祭りや大人が太鼓をたたいているのを見てやってみたくなったり、運動会で小さい子たちがやっていた踊りが楽しそうで、それを発展させたくなったり、観劇の体験が生かされたり、みんなで作り上げたお祭りでの御神輿を再現したくなったり、遊びで友達を楽しんだファッションショーを自分も考えてみたくなったりと、様々な体験が活用される。

5歳児

どんなふうにつくって、どんなものを準備して、どこをメインにして、と考えるうちに、うまくいかないことに気付くこともある。また、意見が割れることもある。自分の意見も言い、友達の意見も聞きながら、何とか調整しようしたり、対立したまま進めていったりしながら、別の考えが浮かぶこともある。

劇づくり

やっていることを見せ合ったり、ビデオで自分たちがやっていることを見ることで、「もっとこうするといい」「ここがうまくいってない」と客観的に見て、自分に取り入れることもできるようになっていく。

製作遊び

これまでの読み聞かせや保育者が紹介したいくつかの話から「このお話を劇にしてみたい」とイメージがふくらむ。思うような役になれなかったり、思いが通らなかったりして、トラブルになることもある。話し合ったり、お互いの思いを何とかすり合わせながら折り合いを付けようしたり、話を少し変えながら進めようしたりもする。その日解決しなかったことが、昨年の経験があることで、翌日、解決策を考えてきたりすることもある。

4歳児

好きな場面では、印象的なセリフがあることで、動きをみんなで考えたり、その部分を中心にしてアレンジしたりするようになる。何度も取り組むうちに、オリジナルの劇に変わっていくこともある。

ごっこ遊び

劇以外でも、これまで歌ったり踊ったりした曲の中から、自分たちで演奏したい曲を決めたり、遊びの中で取り組んできたことを生かしたりすることで、「できそう」というイメージもてる。うまくできないと恥ずかしいという気持ちも芽生えてくるため、すでにできていることやできそうなことをつなげることで、自信につながっていく。

読み聞かせ

読み聞かせ

保育者の読み聞かせがきっかけとなり、役柄になりきることがある。例えば「大きなかぶ」や「三びきのやぎのからがらどん」、「日本昔話」等は、印象的なセリフをすぐに口にする。保育者が絵本に出てくる背景や小道具を準備することで、なりきって遊び始める。

3歳児

何度も繰り返すことで、友達の動きを見ながら、自分もやってみたり、自分なりの動きを見つけたりする中で、友達と同じ動きをする楽しさを感じたり、同じイメージをもって遊ぶおもしろさを感じたりするようになる。

ごっこ遊び

これまでの遊びの経験から、お面があるとよいこと、遊びで使ってきた道具や遊具を組み合わせて使うと本物らしく見えること等に気付いていく。

遊びで行っていたことを全体に広げたり、みんなで他にどんな登場人物がいると楽しくなるかを考えながら進めたりすることで、クラスの取り組みに発展していく。

発表会が終わっても、その余韻を楽しみたいと続けることもあれば、みんなで作くり上げ、やり遂げた満足感から、発表会が終わるとピタッとその続きをしなくなることもある。

みんなで一つのを成功させた体験は、次への意欲を生み出し、チームで取り組む遊びや、友達と一緒に作り上げていく遊びを好むようになる。

一生懸命取り組んできたことが自信となり、これ以降の遊びの中でも、自分の力が発揮できる場があることで、おもしろさを増していく。

これまでと同様の遊びに見えても、役割を分担しながら進めていったり、自分の考えと友達の考えを踏まえて、新しい考えが生み出されることが楽しくなったりもする。また、先を見通して遊ぶ姿も見られ、「今日はここまでつくろう」「明日は、この部分を考えよう」という具合に、計画を立てながら進めることもある。

同じ場で遊んでいなかった友達に意見を聞く場があることで、思いもなかったアイデアをもらえたり、仲間が増えたり、友達の得意とすることに気付いたりすることにつながる。

ショーごっこ

製作遊び

5歳児

お店屋さんごっこ

お店屋さんごっこ

製作遊び

4歳児

劇ごっこ

お店屋さんごっこ

3歳児

劇ごっこ

折り合いを付けたり、みんなでどうしようかと考えたりしながら進めてきた経験は、遊びの中でも生かされるようになる。

トラブル続きだった子が、少し落ち着いたり、友達の言い分を聞けるようになったり、一緒に遊ぼうとしたりすることもある。また、固定されつつあった友達関係に少し動きが見られることもある。

お客さんの存在にも目が向くようになり、台の上で踊ることで「見せる」意識が増したり、向かい側に椅子を並べることで「見られる」意識が芽生えたりする。

空き箱・空き容器に今までと異なる素材を加え、遊びの中で身に付けたり使ったりするものを自分でイメージしてつくることができるような環境があることで、自分で考えたり、工夫したり、友達と協力したりして遊びを進めるようになる。

おうちの方や園の友達に見てもらうという経験は、練習通りにできないこともあるが、経験として積み重なっていく。恥ずかしくてできなかったこと、恥ずかしかったけどがんばったこと全てを保育者に認めてもらうことで、発表会が終わってからも「もっとやりたい」という気持ちにつながる。

遊びの一環として行われた発表会は、通過点であるため継続されることが多い。他の役もやってみたり、年中・長児がやっていた劇や演奏をやってみたくなったりもする。年長児がしていた劇がやりたくて、必要な道具を借りに行ったり、年中児の踊りを一緒に踊り始めたり、身に付けていた衣装等を着て、別のごっこ遊びを始めたりもする。

保育者側から発表会での出し物を提供して進めた場合でも、発表会后、子どもたちの楽しんでいた場面を中心にアレンジしたり、使った小道具等を別の遊びに使ったりすることで、発表会の余韻を楽しんだり、「またやりたい」という気持ちにつながる。

生活発表会に関しては、年齢ごとに、ある程度発表するものが決まっている場合もあれば、絵本がきっかけとなったり、みんなで踊った踊りがきっかけとなったり、別の年齢の子たちがしていた遊びがきっかけとなり発展していきたりと、日ごろの遊びの中から出てきたものを取り上げて発表会につながる場合もある。